

びわ湖大津館 建物のご案内



- 2000年 大津市指定有形文化財登録
- 2007年 経済産業省 近代産業遺産群認定

びわ湖大津館（旧琵琶湖ホテル本館）は、1934年（昭和9年）に外国人観光客の誘致を目的に建てられました。当時、国は国際観光の振興を目的に全国の有名観光地でホテルの建設を始めましたが、現存するものはきわめてわずかです。鉄筋コンクリート地下1階地上3階建てのこの建物は、桃山様式と呼ばれる和風の外観と洋風の内観のデザインが特徴的で、琵琶湖の風景と古都大津の風土に見事に調和したものです。特に、1階「桃山」は、その名にふさわしく格天井の桃山風になっており、当時は落ち着いた雰囲気のある食堂として使用されておりました。設計は、東京歌舞伎座や明治生命館等を設計されたことで有名な「岡田建築事務所（岡田信一郎創設）」によるもので、ホテル時代には『湖国の迎賓館』として、昭和天皇を始め多くの皇族の方々、ヘレン・ケラー、ジョン・ウエイン、川端康成など多分野の著名人をお迎えし、名実ともに県下唯一の格式を持ったホテルとして営業しておりました。

1998年（平成10年）、琵琶湖ホテルが新しく浜大津に移転することになり、この建物の取り壊しを惜しむ多くの市民の声にこたえて、大津市が保存の為に敷地を含め買収するとともに、大規模な補強、改修工事を行ないました。そして、2000年（平成12年）9月には大津市指定有形文化財に登録され、2002年（平成14年）4月から多目的文化施設「びわ湖大津館」として新たに開館しております。

現在、館内にはびわ湖が一望できるレストランやショップの他、貸会議室・貸ホールや市民ギャラリーなどがあり、市民集いの場として利用されています。



BIWAKO OTSUKAN



木製建具

1階の1部には、当初からの木製の窓枠が残されています。また、「桃山」の木製建具には、共通の装飾である唐草文様が使用されており、1948年（昭和23年）まで外窓として使用されていました。



匠の技 唐草飾り

建設当時、窓枠は木製で隅には唐草文様の透かし彫りがついておりましたが、改修前にはほとんどなくなっており、唯一「桃山」に残されていた文様から外側建具に唐草文様を復元することが出来ました。



「桃山」謎の小部屋

「桃山」は、当初食堂として使用されておりましたが、後にはコンサート会場等として使用されるようになりました。桃山を入るとすぐに、欄干のついた小部屋に気づかれることでしょう。この部屋は楽器演奏の為に使用されたという説もありますが、本当のところは定かではありません。



※ 桃山の見学をご希望の方はフロントまでお申し出ください。

照明器具

「桃山」の照明器具は建築当時のもので、改修工事では部品の取替えや修理を行いました。その灯りは現在もなお訪れる人々を温かく照らし続けております。



匠の技 寄木張り

ホテル時代に使われていた当時のカーペットを剥がすと、その下からは小さな木の板を組み合わせた美しい寄木張りの床が現れました。素晴らしい職人の技を今後も引き継ぐ為にも、「桃山」やロビーなどは補修し復元しております。なお、客室からも二種類の木を組み合わせた寄木張りの一部が見つっております。



両替所の格子

一階フロント横の真鍮で出来た格子は、かつての国際ホテルとしての面影をつたえる貴重なものの一つとなっております。外国人観光客の楽しそうな声が今も聞こえてくるような気がします。



真紅のカーペット

一階ロビーにあるマリブルーの縁取りのある真紅のカーペットは、建設当時の写真や従業員の話を聞き再現したもので、見事なコントラストを表しております。



玄関扉

扉を縁取る真鍮の装飾金具は、長年の歳月により色あせておりましたが、全ての金具は「洗い」と呼ばれる修復再生技術により、かつての輝きを取り戻すことが出来ました。



エレベーター

1階ロビー正面にあるエレベーターは、1957年（昭和32年）に設置されたものです。どことなく懐かしさのある停止階表示部分などを、設置当時のまま補修して再利用しております。



鬼瓦

正面玄関前で目を引く鬼瓦はひび割れ等が見つかったことで、今回新たに市内の業者に依頼、製造されたものに取替えておりますが、大津はかつて瓦の産地で有名だったそうです。



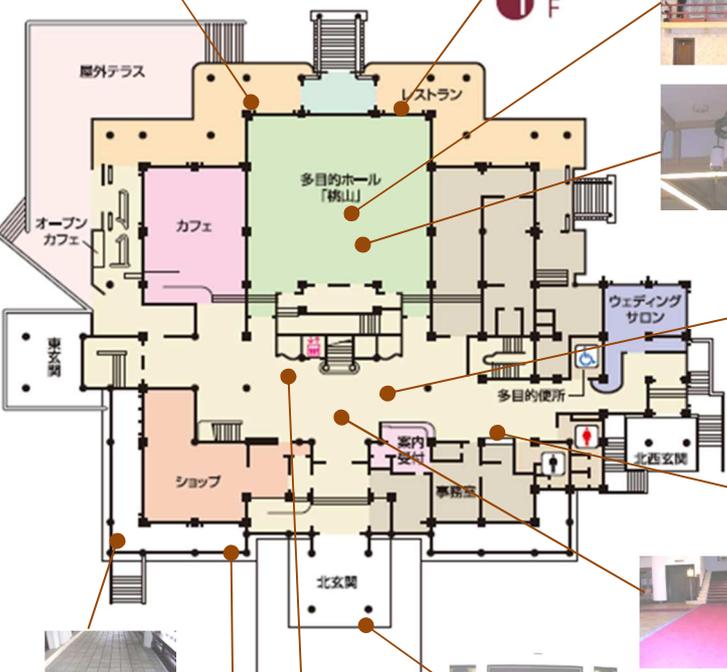
栓皮色（ひわだいろ）の手摺り

勾欄（こうらん）と呼ばれる建物の外側の手摺りは、鮮やかな朱色と考えられておりましたが、建築当初の状態に復元、改修工事を進める際に、栓皮色（ひわだいろ）であることが判明しました。銅版の赤銅色と調和された色つかいとなっております。



緑青色の屋根

勾欄（こうらん）が復元された色であるのに対して、屋根二千平方メートルを銅板でふきなおされる際に、銅板の色をあえて慣れ親しんだ緑青色に、大屋根と小屋根とも化学処理を施されております。



タイル張り

工事中に、勾欄の色と同様にタイル張りが発見されました。一階の外側廊下を回廊のように巡っていたことを証明するもので、大変貴重な発見でしたので、1階北側回廊に復元されております。



風鐸（ふうたく）

風鐸は、ホテル時代には軒下の照明として使用されておりましたが、現存するものは2基しかなく、新たに25基を復元し大屋根に吊り下げております。



匠の技 回廊の装飾

外側の廊下の下部、一階から見上げると廊下の天井部分は、型枠に詰め込んだモルタルを接合する「線型出組（くりかたたくみ）」という技法で造られておりましたが、改修工事をするまではわからなかったようです。今日ではこの技法は難しいものとなっているようです。



2階にはびわ湖が一望できる展望テラスがございます。また、3階には旧琵琶湖ホテル時代の思い出が詰まった展示室もございます。（見学無料・自由にご覧ください）